

171

83

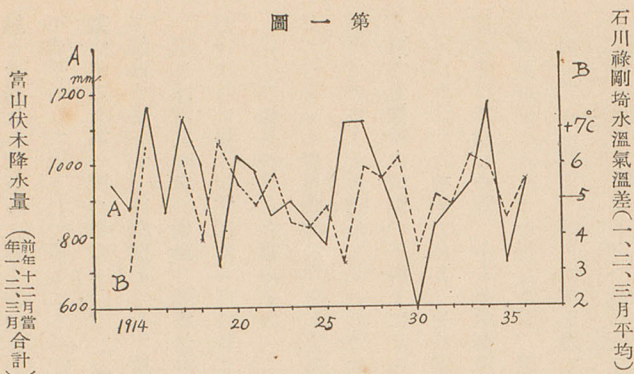
雪量と海水温度との關係

宇田道隆

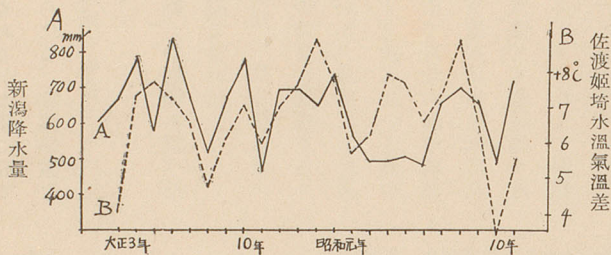
天氣と氣候
第三卷 第八號
昭和十一年八月刊 抜

PP. 56

圖一第



圖二第



雪量と海水溫度との關係

宇田道隆

自分は豫て海況と氣象の相關が思ひの外に密接なものと考へて居るが偶々今年の大雪に刺戟されて次の様な小調査を試みた。之に關して御教示を頂ければ幸ひである。

降雪量は中央氣象臺刊行の本邦累年氣象表及び氣象要覽から富山縣伏木と新潟の前年十二月、當年一月、二月、三月の降水量を拾ひ出して之を合計し、裏日本多雪地方の代表とした。之を圖示したものが第一圖及び第二圖のA曲線である。

次に此の近邊で石川縣能登半島の祿剛埼と新潟縣佐渡の姫埼には大正二年來の水溫氣溫の觀測記録(毎月六回五日おきに觀測)がある(海洋調査要報参照)。之を使つて水溫と氣溫の差の一、二、三月平均を出して圖示したものが第一圖及び第二圖のB曲線である。A曲線とB曲

線とを對比して見ると旨く合はない處もあるが大體に於て可成平行して上下して居ることが認められる。相關係數を勘定すると第一圖の場合+0.27第二圖の場合+0.35で値は小さいが、正相關を示して居る。

別に水溫其の者の變動と降雪量の變動との關係を調べたが合はない場合が之にくらべて多く相關を認め難い。

以上の結果がどんな意味を持つかははつきり分らないが、少くとも對馬暖流の消長が裏日本の雪量に關係する一因子であることは認めてよいのではないか。或はこんな事が降雪量豫報の研究の手掛りにならぬとも限らないと思つて本誌を汚した次第である。先日盛岡市で東北の海洋調査協議會に出張した際、中央氣象臺福岡支臺長須田技師に此の圖を御覽に入れてお話した處、福岡支臺でも最近違つた資料で之と一致する様な結果を得て居ると申された。偶然とは云へ自分の試みが有力な支持を受けた様に感ぜられて嬉しく思はれた。詳しい御發表を期待して擱筆する。

京都に於ける 雪日數比と氣溫遞減率

京都の降水と氣溫遞減率 (六時)
昭和九年十年各一月の氣象月報による

遞減率	-0.4-	-0.2-	-0.2-0	0-0.2	0.2-0.4	0.4-0.6	0.6-0.8	0.8-1.0	1.0-1.2
京都比數 氣溫ノ差	-3.1	-1.9	-1.5	0	1.5	1.6	3.1	3.2	4.7
全回数	2	4	6	12	20	14	4		
雨回数	2	0	3	6	7	4	0		
雪回数	0	0	0	6	12	11	2		
降水數	2	0	3	9	14	12	2		
雨/降水	1	—	1	0.66	0.5	0.33	0		
雪/降水	0	—	0	0.66	0.86	0.92	1		

前略筑波山の經驗に依れば「溫度遞減率が小さい時雨、大きい時雪」の様に住じ候京都の降水に見るに、やはり上表の如く有之、右思ひ付き候まゝ一寸申上候

昭和十一年一月二十五日

雪のち雨の日

高山四郎